

## 池田 剛士

---

**宛先:** 青梅市役所  
**CC:** 理化学研究所; 国立健康・栄養研究所; 日本学術振興会; RKB毎日放送; いもいち班; 大林 広樹; 平野 有紀  
**件名:** お願い（みと・あかつかカンファレンス）\*メディア詐欺対策室 ; 浜中啓一 市長案件（刑事・民事責任追及）

青梅市役所 御中

学術秘書  
池田です。

記事の修正又は削除をお願いいたします。

<http://www.ome-tky.ed.jp/kyushoku/documents/tayori2803.pdf#page=2>

修正又は削除が必要な記事の一覧、Google キャッシュ検索の結果（site:ome-tky.ed.jp ムチン）も併せてご確認ください。

<https://www.google.co.jp/search?q=site%3Aome-tky.ed.jp+%E3%83%A0%E3%83%81%E3%83%B3&oq=site%3Aome-tky.ed.jp+%E3%83%A0%E3%83%81%E3%83%B3&aqs=chrome..69i57j69i58.4870j0j4&sourceid=chrome&ie=UTF-8>

修正の際のポイントは、3つあります。

(1) 「ムチン」という言葉を使うこと自体が誤り。

(「植物」の話をしていて、「ムチン」について語ること自体ナンセンスです。)

(2) 「ムチン」と関連付けて語られてきた、夏バテ解消、スタミナ食材、疲労回復といった健康効果も全く根拠なし。

(「健康効果」は、ヒトや動物から分泌される「ムチン」本来の働きから想像された話であって、食べてどうこうの話ではありません。)

(3) 「ネバネバの正体は『ムチン』」も誤り。

(「ムチン」は「糖たんぱく質」といわれますが、「植物の『糖たんぱく質』」はネバネバしていません。)

「(日本国内だけで) 植物の粘性物質をムチンと呼ぶことの根拠や起源」が判明いたしました。

(『mucin』と『mucus』の混同) ないし「『mucus』の誤訳」、

「『mucin』と『mucilage』の混同」ないし「『mucilage』の誤訳」が誤報の原因でした。  
つまり、動植物の粘性物質をムチンと呼ぶ「学説」は存在しません。

<http://acsec.jp/mucin.html>

)

“フィッシャーの呪い撲滅キャンペーン”へのご理解、ご協力をお願いいたします。

<http://acsec.jp/maffgo.html>

※平成の大獄（へいせいのたいごく） | 改元の礼：

<http://heisei.nokyoko.jp/>

では。

この件に関するお問い合わせ先：

みと・あかつかカンファレンス事務局長

ラクトース研究班「いもいち 2025」班長代理

有限会社学術秘書

本店営業部

池田剛士

〒311-4141

茨城県水戸市赤塚 1-386-1-107

電話：029-254-7189

携帯：090-4134-7927